

「1950年代教育史」研究部会（第30回）

日時：2018年10月19日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）鳥居和代研究員報告：「子どもの長期欠席データにみる漁業の位置」

- ◆全国的な長期欠席調査にみる産業別・家庭の職業別データにより、漁業の位置を明確にする
 - ・文部省 1952年調査（保護者の職業別長期欠席率）
 - 全国：中学校では水産業が高い
 - 千葉：中学校は全国よりさらに差が大きい
 - ・千葉県 1955年調査（保護者の職業別長期欠席率）
 - 1952-55年の推移をみても保護者の職業別長期欠席率が水産業は変わらず高い（確認点）水産業=漁業とみてよいか？
- ◆今後の論稿の進め方
 - ・戦前から継続している問題：漁業の不振・不漁 漁業地域の就学率の低さ
 - ・戦争が引き起こした問題：父親の兵役・戦死→貧困
 - ・戦後の改革や混乱がもたらした問題：新制中学校の義務制 青少年問題の「社会問題化」
 - ・50年代に新たに現出した問題：米軍基地・米軍施設による漁業への打撃

（2）西山伸研究員報告：「1950年代における大学管理をめぐって（3）」

- ◆国立大学管理法案をめぐる経緯・法案起草の経緯をみてきたが、今回は研究史を検討。
 - ・小原正治、家永三郎、寺崎昌男、大崎仁など
 - 「国会の内外においてこの法案に対する批判はきわめて多かった」
 - ・国会における審議
 - 新しい大学管理への「期待」
 - 反対派の論点 主張はほぼ共通（一覧表作成）
 - 国会内で反対論があるのは普通のこと→参考人の選定基準は？
 - 国会内外で激しい反対運動はあったのか
 - レッドパージ反対運動はあったが、それ以外の学生運動がどれほど展開されていたか

- ・次回研究会は、2018年11月30日（金）13:00～ 米田研究員、須田研究員
- ・次回以降のスケジュール 2019年1月18日（金）13:00～